

元和7(1621)年、久留米藩21万石の藩主・有馬豊氏が久留米城に入城しました。来年で400年。今に残る文化財をひもときながら、有馬の歴史をシリーズで紹介します。

有馬家前の2人の領主

市役所はキリスト教会堂

本庁舎建設前、平成3年から4年に行った両替町遺跡の発掘調査で、鬼瓦やキリスト教会の柱跡が発見されました。この場所は、江戸時代に久留米城下町の中央部にあたり、「両替町」と呼ばれ、「御使者屋」という迎賓館のような役割の建物がありました。有馬豊氏の入城前、この地を治めていたのが小早川秀包です。秀包は、戦国の雄といわれた毛利元就の九男。13歳の時に実兄の小早川隆景の養子になりました。天正15(1587)年、久留米城に入城。黒田官兵衛の勧めでキリスト教に入信したのもこの頃です。キリシタン大名の秀包は、統治するこの地にキリスト教会堂を建設。教会の瓦には自分の出身である毛利家の沢瀉文(せしかんもん)を使用しました。秀包は、慶長5(1600)年の関ヶ原合戦で西軍に属し敗戦。久留米の領地も没収されました。

今に継承される田中道

小早川家が衰退した後、筑後国の領主となったのは、田中吉政・忠政です。吉政は、関ヶ原合戦で敵軍の

将である石田三成を捕縛する功績を挙げ、その褒美に筑後国を与えられました。慶長6(1601)年、筑後一國30万石余の領主になります。久留米城は、堀が狭く守りに弱いと判断し、柳川城を居城にしました。柳川城と久留米城をつなぐ幹線道路を整備。田中道といわれ、現在の県道23号線久留米柳川線になっています。吉政は、政治や軍事に優れ、土木や治水などで積極的な領内支配政策を進めました。筑後川の最初の治水工事は、吉政が行ったと記録されています。当時の筑後川は、長門石方面に大きく蛇行していて、洪水被害の原因の一つでした。現在の瀬下を掘削してショートカットする「瀬ノ下新川開削」工事を行いました。善導寺町から筑後川の水を引水し、高良山の下から三潞郡を横切り、山門郡の塩塚川に注ぐ大運河を計画しましたが、道半ばで死去。四男の忠政が城主となりますが、36歳で病死。後継ぎもいなかったため、田中家は断絶しました。

文化財保護課(☎0942・30・9225、FAX0942・30・9714)

14



大本山善導寺の境内に田中吉政供養塔があります。久留米柳川線沿いには、吉政を祭る神社が点在しています

篠山神社境内にある小早川秀包を祭る小早川神社。石扉には十字が刻まれています



両替町遺跡から発見された沢瀉文鬼瓦(おもだかもんおにがわら)。中国地方の大名毛利家の家紋が使われています。左下の一部が欠けていますが、縦24cm、横30cm、厚さ8cmの鬼瓦です



小早川秀包が建てたキリスト教会堂の復元模型。両替町遺跡から、現在の市役所の場所に建てていたことが判明しました

